

日 時 平成21年9月20日午後2時10分キックオフ（快晴）

会 場 生目の杜総合グラウンド天然芝

相 手 サンターナ

結 果 1－5（1－2、0－3）

得点者 青山

内 容 無情！捲土重来！光明も！

何年かぶりのマネージャーの参戦や育児休部明けの工藤の参加も、メンバーはギリギリの12名。相手は2部から昇格したばかりで勢いのあるサンターナに対抗して、フェニックスは新規加入のニューズトップ（武田、青山）に期待するところあり。

（前半）

出だしの5分間は、豊富な活動量で中盤に位置する渡部・瀬戸山の活躍もあり、バランスの良い好守でせめぎ合いが続き、4分過ぎには、左からのFKを得て惜しいシュートもあった。守備陣も初ペアを組むセンターバック陣（赤野、久保）の堅守が光っていた。

15分過ぎには、またもや中央付近でFKを得て、渡部がつなぐも惜しいヘディングシュートがあった。

しかし、そのご、次第にスピードに勝る相手FWが守備陣の間をすり抜けるようになり、16分過ぎには、ゴール前でフリーでシュートを打たれる。この時は、谷照大神（たにてらすおおみかみ）の眼力で防いだものの、18分、右から切り込まれついに失点（0－1）直後の19分には、右サイドからのFKを決められ、あっという間の2失点。

フェニックスもまだまだ頑張り、21分過ぎには、相手ゴール前のパスミスを見逃さなかった、青山が加入後、初得点で1点差に迫る（1－2）。

ただ、相手のプレッシャーは続き、27分、28分とフリーでシュートを打たれるものの、またもや谷照大神の眼力、剛力で跳ね返し、前半を終了。後半に逆転の望みをつなぐことが出来た。

（後半）

入りはフェニックスの猛攻。左右から相次いでFKを得るも、相手DFの好守に阻まれ得点することができず、逆に、2分、6分、8分と加点されあっという間の1－4。

これに奮起した自軍（フェニックス）は、9分には、右からパスをつなぎシュートまで至るものの、GK正面を突いてしまい、15分には、左からの青山のセンタリングも相手GKに好キャッチされ、16分には、谷照大神からのロングプレスを青山が上手く受け、瀬戸山に好パスするも、シュートは惜しくも相手GK正面。

22分には、カウンターを受けだめ押しの5点目を奪われてしまった。

（付録）

5失点は昨季の増田戦以来であり、これで昨季の負け数（4敗。2勝）と並んでしまいました。ただ、光明は、ニューズトップの活躍が光ったほか、相手をかかわす術を身につけた越智、中盤の押さえ（瀬戸山、渡部）の運動量は常に豊富で、後半終了間際にも、惜し

いFKや渡部の切れ込んでからのシュートなど、今後に残留の期待は十分残されています。  
ただ、今回は、相手のカウンターとシュートの正確性にやられた感がありました。  
残された4試合は集中して頑張りましょう！！！！

参加者

<先発>

FW（武田、青山）

MF（緒方、渡部、瀬戸山、越智）

DF（工藤、赤野、久保、中園）

GK（谷之木）

<交代> なし

監督等 高妻

応援 ミス・マネージャー

## リーグ戦個別戦績内容

+++++ 【第七節】 +++++

日 時 平成21年10月4日午後2時キックオフ（快晴）

会 場 エントランス

相 手 JA

結 果 0-3（0-1、0-2）

内 容 瀬戸際から崖っぷちへ！？

リーグ戦第7戦。ここまで2勝4敗。相手は強豪のJAだが、最低でも引き分けたい

ところ、、だったが、結果は0-3の完敗！JAはエースでトップ下の14番が不在だったものの、それ以外はフルメンバー。フェニックスも、久々にメンバーが揃い人海戦術にて対抗する予定だった。

以下、OZUMA メモです。

~~~~~

（前半）

風下という有利なサイドをとり、静かな立ち上がり。

10分：左から青山のおいしいシュート

16分：左サイドから久保のセンタリングに兎玉がダイレクトで合わすも惜しくもゴールにならず。

18分：右サイドの兎玉から左の渡部にロングパスが通ったものの、惜しい、、。

25分：左サイドでパスカットされ、切り込まれてシュート。0-1。

（後半）

6分：右からドリブルで切り込まれ、失点。早々の2点差。

その後は押しつ押しされつながら、決定機をつくれず、

21分渡部が左からセンタリングするも得点につながらず、

直後の22分、左から切り込まれて3失点目、で、ジ・エンド。

（反省）連続しての大量失点（8失点1得点）、守備の意識の見直し

~~~~~

【前半】

- ・JAに固さがあったためか、フェニックスペースで試合に入った。ワンツー、そしてスルーパスが通りシュートまで行った場面もあり、先制点のチャンスはあった。
- ・序々にJAペースになるも、決定的チャンスまでは作らせず。
- ・粘っていたが、中へのパスから失点！

【後半】

- ・選手交代でリフレッシュを図るも、JAも効果的な選手交代で、運動量ではJAに軍

配。JA ペースとなる。フェニックスは、決定機をほとんど作れず、。

#### 【失点シーン】

- ・ 1失点目： DFラインでの中央へのパスを拾われた。
- ・ 2失点目： 相手FWの個人技（ドリブル）にやられた。
- ・ 3失点目： サイド攻撃から、中央のフリーのFWに合わせられた。

#### 【これから、、、】

- ・ 年齢層の高いフェニックスとはいえ、一人一人の運動量を上げないことには勝機は見えてきません。
- ・ DF陣は、球離れを早くして、安全なプレーを。ボールを受ける前に次のプレーを意識することを徹底する必要あり。あと、カバーリングの意識を高める必要あり。
- ・ 単発でのシュートはあるものの、こぼれ球を拾った厚みのある攻撃とまではいかず、相手の脅威となっていない。攻撃時の中盤の押し上げ、それに合わせたDFの押し上げが必要。
- ・ 最後は、声出し、でしょうか、、。声を出すことで、集中力が増したり、アドレナリンが出たりするはずです。
- ・ 次戦の相手はFC増田です。毎年恒例の崖っぷちの戦いになり、おもしろくなってきました。落ちそうで落ちないフェニックス。気持ちで負けないように臨めば、結果は付いてくるはずですよ！たぶん、、。

#### 【コメント】

- ・ DF久保： 痛恨のパスミスはあったものの、的確なオーバーラップとMF青山との  
パス交換で、前半の左からの厚みのある攻撃を支えた。
- ・ HT児玉： 逆サイドへのロングパスが光った。
- ・ MF渡部： 相変わらずの運動量で中盤の守備に貢献。

参加者

<先発>

FW（藤田、黒田）

MF（青山、渡部、瀬戸山、児玉好）

DF（久保、赤野、久保野、越智）

GK（谷之木）

<交代>

後半：久保→牧、青山→武田

後半15分：藤田→戸田

後半25分：越智→荻窪、瀬戸山→鳥原

審判 副審：赤野、鳥原

監督等 高妻

---

## リーグ戦個別戦績内容

+++++ 【第八節】 +++++

日 時 平成21年10月18日午後2時32分キックオフ（快晴）

会 場 エントランスプラザ

相 手 FC 増田

結 果 3 - 0 (1 - 0、2 - 0)

得点者 緒方、瀬戸山、黒田

内 容 信じられなあ〜い（ヒルマン監督風）

MVP 緒方、谷之木大明神

今節の相手は FC 増田。昨年1位で、かつ惨敗（0 - 5）したチーム。11人きっかりしかいないとはいえ、格上の相手。一方フェニックスは、ここまで2勝5敗。リーグ残留には崖っぷち、。守備を固めるため、成長著しい越智と攻撃的MF 藤田をサイドバックに据え、守備的に布陣とした。

（前半）

序盤は落ち着いた立ち上がり。10分過ぎから動きが激しくなり、16分黒田からのパスが相手DFに当たり、うまく緒方の前へ。これを落ち着いて決め、何と先制点が転がり込んできた。

ここから増田の猛攻が始まる。縦横無尽にパスを通され、押さえ込まれたものの、黒田らのカウンターで応戦。22分には相手CKからのシュートを谷之木大明神が体でセーブ！

逆に23分には黒田の落としを右サイドから瀬戸山がシュートを放つも、僅かにゴール左に外れる。

28分には、カウンターで持ち込まれ相手FWがフリーでゴール至近距離からシュートするも、ポストを直撃。難を逃れた。その後、前半終了まで、シュートの嵐を守備陣が何とか持ちこたえ、前半を、予想もしない1 - 0で折り返した。

（後半）

右MFを体調不良にも関わらず頑張った久保から元気坊の牧に交代した以外は、前半同様の布陣。

前半終了時と同様に、パスを通され、自陣に押し込まれてばかりであったが、次第に、相手も焦りが見え始め、前掛かりになったところに、カウンターが通じ、前線の武田が落としたボールを瀬戸山がダイレクトでゴール右隅に鮮やかに蹴り込み、何と・何と2 - 0！

相手はさらに焦ってくるばかりで、こちらのカウンターが何度も通用するようになり、21分には、右サイド奥から藤田が前線にロングパス。これに追いついた黒田からゴール前のフリーの武田にパス。ごつつあんゴールで、何と・何と・何と3 - 0。武田はフェニックス初ゴールであった。

以降は、攻め込む相手に、カウンターで応戦することが試合終了まで続き、相手シュートがバーを直撃する等いろいろあったものの、驚きの3-0で試合終了。これで、残留希望が出てきました。

<今日のポイント>

- ・「増田が相手じゃ勝てんわな〜」という雰囲気、先制点ゲットで一変。相手のミス絡みとはいえ、メンバーのモチベーションを上げる値千金の緒方のゴールであった。また、ドリブルも切れていたのが MVP。
- ・相手のシュートミスもあったが、前半の猛攻を守備陣が粘り強く対応し、無失点で切り抜けたのが大きかった。とくに谷之木大明神の念力とゴールポストの働きは見事であった。後半も堅実な念力で無失点に貢献。前節でパッとしなかったサイドバック 2 試合目のマッコ越智も、無難に守備をこなし、MUD(マッスルディフェンス)を披露した。
- ・相手が強いため、特に後半は、数年前の得意戦術ロングボール作戦を多用。これが、前線の頑張り、ボールをキープしたり、相手がタッチラインに弾き出したり、裏を取れたり、結果的に試合を五分の展開に持ち込めた。しかも、前半風上を選んだが、後半もいつの間にか風上になり、相手の浅い DF ラインもあり、ロングボールがより生きる結果となった。
- ・声出し、モチベーションが最後まで落ちなかった。特に、HT 児玉が「打ちたい！打ちたい！ボクちんもシュート打ちたいよお〜！」という欲求を封印しチームを鼓舞する姿は、チームの士気を大いに上げた。

さて、次節は宮大が相手。今年は残留争いをしてはいますが、かなりの強敵で、今節はベストメンバーの JA 相手に 3-3 の引き分け。一人一人の動きだしが早く、JA と互角に戦っていましたが。失点シーンは DF ラインがオフサイドの取り損ねで裏を取られ独走を許し失点。次戦のポイントになりそうです。

今節の試合で分かったことは、1 部リーグは格上相手ばかりですが、決して勝てない程の実力差はないこと、そして、勝利の喜びは相手が格上である程大きいだと思います。

残り 2 戦、頑張っ、忘年会のネタ作りの勤しみましよう！

参加者

<先発>

FW (黒田、武田)

MF (緒方、児玉好、瀬戸山、久保)

DF (越智、赤野、久保野、藤田)

GK (谷之木)

<交代>

後半：久保→牧

後半 25 分：牧→荻窪

審判 主審：甲斐、副審：緒方  
監督等 高妻

## リーグ戦個別戦績内容

+++++ 【第十節】 +++++

日 時 平成21年11月29日午後2時 キックオフ（曇り）

会 場 綾町松原河川敷グラウンド

相 手 OKI

結 果 3-3（0-3、3-0）

得点者 緒方、渡邊、藤田

内 容 有終の美を飾る。

レギュラー陣の大半が欠場する中、渡邊大介が今期、初めて出場した。

対象チーム（カントリー）が負け、フェニックスが強豪OKIに勝利するという厳しい条件下でのみ自動降格を逃れられる最終決戦であったが、悲しいことに前の試合でカントリーがラモーナに大勝（5-1）したことから、フェニックスの10位（自動降格）が決定してしまった。

ただ、メンバーのモチベーションは高く、何とか有終の美を飾ろうとする意欲が見て取れた。

レギュラー陣の大半が欠場する中、渡邊大介が今期、初めて出場し、荻窪も初先発となった。

（前半）

急造布陣のためか、攻守布陣の連携がうまくいかず、中盤を制せられ、走り回る相手に右往左往してしまい、2分、10分とあっというまの2失点（0-2）。

そこで、藤田と久保を入れ替え、ボランチに藤田、左DFに久保として安定感を図ろうとしたものの、なすすべもなく23分過ぎに3点目を失い、どうすることも出来ない前半を終えた。

（後半）

一部での最後の試合を無様に終わりたくないとの気持ちが全員に伝わり、前線から思い切ったプレッシャーをかけ、勝負に出た。

急造布陣にも慣れ、運動量が落ちないフェニックスは次第にポゼッション（ボール支配率）が高くなり、また、谷照大神（たにてらすおおみかみ）が再降臨し、

第2のスーパーとして、縦横無尽に危機を救うカバープレーを連発。シニアとは思えない（？）牧の衰えないスタミナで広範囲をカバーする献身的なプレー。

荻窪は、右サイドを駆け上がり、精度の高いセンタリングを上げまくる、、、

そして、10分過ぎ、相手ゴール前中央付近でFKのチャンスを得ると、緒方が、フェニックス史上初となるフリーキック直接シュートを

相手ゴール右隅にたたき込んだ！（1－3）

その後も怒濤の攻め。14分過ぎには、右サイドからの武田のセンタリングを黒田がシュート、相手GKがはじいたところを、渡邊大介が1年ぶり（昨年のリーグ最終戦11月30日、ラモーナ戦以来）のゴールをたたき込む！

怒濤の攻めはまだまだ続き、数え切れないくらいのCKを緒方が上げ続け、相手ゴールに襲いかかる。ただ、1点差のまま時間は過ぎていく。

その間、緒方の惜しいシュートや、赤野のジャストタイミングのヘディングシュートもあったが、相手守備陣の堅守に阻まれ、なかなか点が取れない。

だんだんと、試合時間が少なくなってくる中、

相手ゴール裏には元キャプテンの黒木が陣取り、怒濤のようにシュートを外す（？）フェニックス攻撃陣に少しでも攻撃時間を与えるため、

ゴール裏で献身的なボール拾いに徹するという涙ぐましい動きがあったことは見逃せない。

そして、まさにタイムアップ寸前！

最後となる緒方のコーナーキックを藤田が見事なヘディングシュート！これが決まり、同点！！！！そして直後に試合終了のホイッスル！何とも劇的な同点劇であった。

これで、3勝1分、勝ち点も10となり、胸を張って（？）二部に行けます。また、レギュラー陣が不在でも一部上位のOKI（6位）に奮闘したチーム力は確かなものになり、来年の自信にもつながっていくものと思われます。

参加者

<先発>

FW（渡邊、黒田）

MF（牧、久保、武田、荻窪）

DF（藤田、緒方、赤野、中園）

GK（谷之木）

監督等 日高、黒木、高妻

## カップ戦個別戦績内容

+++++

日 時 平成21年12月6日午後0時40分キックオフ（快晴）

会 場 生目の杜多目的グラウンド

相 手 スフィーダ

結 果 2-6（0-3、2-3）

得点者 武田、児玉好

内 容

（前半）

12分 左からのセンタリングをダイレクトシュートされ0-1

18分 中央から切り込まれて0-2

27分 FKをゴール前に放り込まれて、0-3

（後半）

6分 武田が角度の無いところから決めて1-3。前回のリーグ最終戦を彷彿させたが、ここから3連続失点

16分 PKを取られ1-4

17分 左を破られ、センタリングをヘディングシュートで1-5

18分 中央を突破され1-6

20分 中央付近のFKを藤田がシュート、バーに当たって跳ね返ったところを児玉好がジャンピングダイレクトシュート（JDS）で2-6

参加者

<先発>

FW（戸田、児玉好）

MF（藤田、青山、武田、牧）

DF（久保、久保野、赤野、黒木）

GK（谷之木）

<交代>

後半15分 黒木→稲用

後半25分 久保→高妻

監督等 高妻

応 援 瀬戸山、児玉3兄弟